

第 1 回少人数教育推進検討委員会の概要

1 25人学級の導入について（議事）

（1）25人学級の小学校2年生への導入について

①委員の主な意見

- ・小学生の発達段階での心理的な特性を考えた時に、やはりある程度、一定期間同じ集団の中で落ち着いて、学習や生活をするのが望ましい。
- ・1年から2年でのクラス替えは行っていないので、1年生の次は2年生に導入するのが順当である。
- ・1年生と2年生で同じような集団で持ち上がってくような形をとると、保護者としても安心する。

②意見集約

- ・25人学級は、小学校1年生に引き続き、小学校2年生への導入が望ましい。

（2）他学年への導入について

①委員の主な意見

ア 小学校中学年以降の学級集団の規模について

- ・中学年において、大きな集団で切磋琢磨とか社会性や協調性を養うことは、自己実現していく子供たちへの手助けという点で教育効果はある。
- ・小学校3年生くらいから、友達同士の関わりとか、集団の中での関わりの中から学んで、学級集団として指導していくことがとても重要になってくる。
- ・多様な価値観や様々な個性と触れ合って、人間性を広げていく、社会性を身につけていくという点で、ある程度の人数が必要。
- ・3年生も30人というのが1、2年生からのギャップを減らすことでは確かに良いとは思いますが、例えば30人であれば、2クラスに分かれる最低人数が31人なので16人と15人ということになる。35人学級だったら、2クラスに分かれるのが36なので、18人ずつになる。あくまで理論的な話だが15人学級というのが、子供たちの集団生活の中でどうか。
- ・クラスの人数をある程度確保した上で、そのクラスに柔軟に加配の先生などを入れて、対応していくことも、またむしろ固定化された人数よりも、柔軟に対応できることで、有効性もあるのではないか。
- ・学級集団数の格差が大きくなることの子どもたちへの影響を考えていかななくてはならない。
- ・1年生と2年生が25人学級、3年生は35人という訳にいかないからやがては30人学級、5年生からは35人学級でいくという流れが良いのでは。
- ・30人だったらきめ細かな指導ができるのか、35人でもできるのか、もっと少ない人数の方がいいのか分からない。

- ・小学校1、2年以降の他学年の導入については、一概に数字を決められないところもある。しかも、GIGAスクール構想、外国語教育や、教科担任制の導入等と新しい教育内容がたくさん入ってきている。これらが、少人数だからうまく対応できるのか、それとも現状の人数で集団としての良さを生かせるのか。
- ・国の動向も見定めながら、議論を進めていく必要がある。

イ 考慮すべき課題

- ・不登校やいじめの対応、それから特別な支援を要する児童生徒へのきめ細かな指導等の対応が必要。

②意見集約

- ・小学校3年生以降は、次回以降も引き続き検討する。

2 教員の人材確保について（報告）

- ・優秀な人材の確保と、研修並びに人材育成等については強力に進めていかなければならない課題である。
- ・人材確保については、教職員を目指そうとする学生、あるいは中途採用の方々が、増えないことには実現しない。
- ・学校という職場の働き方等が教職員を目指す方にとって魅力的なものでなければいけない。
- ・一定の質を持った先生を採用する、そして、その先生がきめ細かな指導をできるようにしなくてはならない。